普及活動情勢報告（令和８年９月分）

幡多農業振興センター農業改良普及課

イチゴの良質苗の確保に向けて ～ＪＡ高知県中村支所おおきみ部会現地検討会～

現地で意見交換を行う生産者

８月 19 日、黒潮町、四万十市、宿毛市のほ場で、ＪＡ高知県中村支所おおきみ部会の現地検討会が開催され、生産者９名、研修生１名、関係機関７名が参加しました。

農業改良普及課からは、育苗期におけるかん水管理や炭そ病対策、農薬の適正使用について情報提供しました。

生産者からは、「順調に育苗管理ができている」「病害虫防除を十分行い、植付けをする」等の声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も定期的な巡回を通して、病害虫の早期発見・早期防除を啓発し、‘おおきみ’の安定生産を目指して栽培技術の向上を支援していきます。

資材高騰に負けない ～大月町簿記講習会～

簿記ソフトの使い方を指導する普及指導員

８月 24 日、大月町農村環境改善センターで簿記講習会を開催し、生産者５名、認定新規就農者１名、関係機関４名が参加しました。

農業改良普及課からは、簿記ソフトの使い方や仕訳記帳について指導を行いました。

生産者からは、「資材が高騰しているため、低コストを意識して購入している」との声が聞かれました。

農業改良普及課は、今後も簿記講習会を開催し、決算書作成に向けて支援していきます。

最近の米ナスの生育は？ ～北幡（西土佐・十和）米ナス部会現地交流会～

遮熱資材の効果について説明する普及指導員

８月 25 日、四万十市西土佐で、北幡（西土佐・十和）米ナス部会現地交流会が開催され、生産者 18 名、ＪＡ職員 11 名、関係機関７名が参加しました。

農業改良普及課からは、遮熱資材を使用した場合の温度データを提示し、温度抑制効果について情報提供しました。

参加者からは、「今年は暑さが厳しく、石実・日焼け果が多い」「遮熱資材を使うと風通しが悪くなり熱が滞留することはないのか」等の意見や質問がありました。

農業改良普及課は、今後も高温対策技術の周知を行い、米ナスの安定生産に向けて支援していきます。

三原の農地を保全する連携組織設立に向けて
～ドローン防除に関する意見交換～

意見交換を行う
参加者たち

９月９日、三原村役場で、広域連携に向けたドローン防除に関する意見交換会が開催され、組織代表者５名、関係機関４名が参加しました。

農業改良普及課からは、共同利用機械を管理・貸出できる連携組織のメリットについて情報提供しました。

参加者からは、広域連携を進めるに当たっての課題や懸念点について様々な意見がありましたが、その一方で、連携に向け、今後取組を進めながら課題を整理し、具体的な運用方法等を検討していく方向で合意しました。

農業改良普及課は、今後も取組の周知や具体的な活動内容について関係機関と検討し、広域連携に向けた支援を行っていきます。

次作に向けて　～ＪＡ高知県三崎出張所施設園芸部会総会～

高収量農家が栽培する
キュウリの根の状態について
説明する普及指導員

９月 10 日、ＪＡ三崎出張所で、ＪＡ高知県三崎出張所施設園芸部会総会が開催され、生産者９名、関係機関９名が参加しました。

農業改良普及課からは、新規就農者と高収量農家のキュウリの生育状況を比較し、栽培指標となる生育の目安について情報提供しました。

参加者からは、「品種間差はあれど目標とする樹の状態があるのは面白い」「生育の目安に向けた樹のコントロール方法を知りたい」等の意見がありました。

農業改良普及課は、今後も新規就農者と高収量農家を中心に生育や栽培環境を調査し、産地の技術向上に向けて支援していきます。

四万十市大宮地域の将来像を考えよう　～（株）大宮産業との意見交換会～

今後の取組について
意見交換をする参加者たち

９月 11 日、四万十市西土佐総合支所で、（株）大宮産業との意見交換会を開催し、代表者１名と関係機関５名が参加しました。

農業改良普及課からは、管内の集落営農法人や広域連携組織の活動状況の紹介と今後の大宮地区での具体的な活動について提案しました。

意見交換では、（株）大宮産業が若者の雇用を前提に、今後地域で耕作できなくなった農地の集積や野菜栽培、ドローンでの共同防除に取り組む案など、将来に向けた活発な協議が行われました。

農業改良普及課は、今後も関係機関と協力し具体的な取組の実現に向けて支援していきます。

今年の酒米の出来は！　　～富山酒米生産部現地検討会～

酒米の登熟の状況を
確認する生産者たち

９月 15 日、四万十市富山地区の現地ほ場で、富山酒米生産部現地検討会が開催され、生産者３名、関係機関１名が参加しました。

農業改良普及課からは、収穫までの管理と適期収穫の実施、乾燥・調製作業の注意点について情報提供を行いました。

生産者からは、「刈り取りの適期はいつ頃か」「水分が多い場合の乾燥はどうすればよいか」等の質問がありました。

農業改良普及課は、今後も酒米の生産安定に向けて支援を行っていきます。